

富良野市障がい者計画に関するアンケート結果について

1.富良野市の全体像として

- ・今回の回答では、65歳以上の方が前回と同程度で約65%でした。高齢の方が多くことが、富良野市の大きな特徴です。生活の中では、家事・外出・健康管理・お金の管理で助けが必要、という声が多くありました。
- ・介助をしてくれる主な相手は、ホームヘルパーや施設の職員という答えが32.3%といちばん多く、前回より割合が増えています。介助が家族だけでなく“外部の人”にも広がっている状況です。

2.【移動について】

- ・外出で困ることの第1位は「公共交通が少ない・ない」でした。前回よりもこの割合が少し増えています。移動の不便さを感じられているということです。
- ・自由意見でも、バスの本数が少ない、デマンド交通(ふらのり)が使いづらい、JR富良野駅にエレベーターがないなど、具体的な困りごとが多く出ました。冬になると外出がさらに難しいという声もありました。

【医療への不安と負担について】

- ・医療の分野では、「医療費の負担が大きい」が最も多い困りごとで、前回と同じくらいの割合でした。負担感は継続していると言えます。
- ・自由意見では、専門病院が少ない、市外への通院が大変という声が多く出ています。ここでも、移動の不便さと医療の問題が重なって、生活の負担になっています。

【外出の機会について】

- ・今回の調査では、「週に数回外出する」方が前回より増えました。外に出る機会は少し広がっています。一方で、公共交通の不足が外出時の困ることとなっています。

【災害時について】

- ・災害への不安は前回より増えています。とくに、「避難所の設備や環境が不安」、「薬や治療が続けられない」という心配が高くなりました。

【生活満足度などについて】

- ・富良野市を「生活しやすい」と感じる人は6割強で、前回とほぼ同じでした。
- ・市への要望は、今回も「障がい者が暮らしやすいまちづくり」が1位でした。「経済的な支援」や「災害への対応」を求める声も、前回より増えています。
- ・自由意見では、大型の買い物施設が少ない、福祉情報がわかりにくい、除雪や冬の移動が大変、子どもの放課後や病児保育が足りない、家計が厳しいなど、毎日の生活に直結する課題が多くあがりました。

3.【事業所からの状況】

- ・事業所の調査からは、就労継続支援B型や生活介護、入所、相談支援が地域の中心サービスになっていることが分かります。
- ・また、人材不足が大きな課題で、通院同行や服薬の見守り、金銭管理など“生活そのもの”を支えるニーズが増えているという声がありました。住宅や移動、医療の資源が足りないという指摘も出ています。一方で、権利擁護(差別や虐待をなくす動き)は、研修や制度改正の効果もあり、ゆるやかに良くなっているという評価が多くありました。